

赤十字 NEWS

MARCH 2018
NO.934

3

平成30年3月1日(毎月1日発行)
赤十字新聞 第934号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

危ないよ！
危ないよ！
危ないよ！

http://www.jrc.or.jp

突然ですが、問題です。
地震が起きました。
危険な行動を取っているのはどの子でしょうか？

日赤は、4歳からの幼児向け防災教育を始めます。
防災・減災の輪が社会全体に広がるよう
子どもたちにも自主的に考えてもらい、
判断力を養います。



【もんだい】災害が発生しました。この後どうなるかを予想し、危険なところを教えてください。

CONTENTS

FEATURE__2・3

4歳から防災意識を。
幼稚園・保育所で
防災教育スタート

引き出す！
子どもの対応力

TOPICS__4・5

ダニエル・カールさんが
寄り添い、見てきた復興の軌跡
忘れないプロジェクトとは？

Column

最終回[とっさのとき、どうする？]
急性アルコール中毒

AREA NEWS__6・7

北海道/東京都/福井県/
三重県/岡山県/大分県/
佐賀県/熊本県/全国

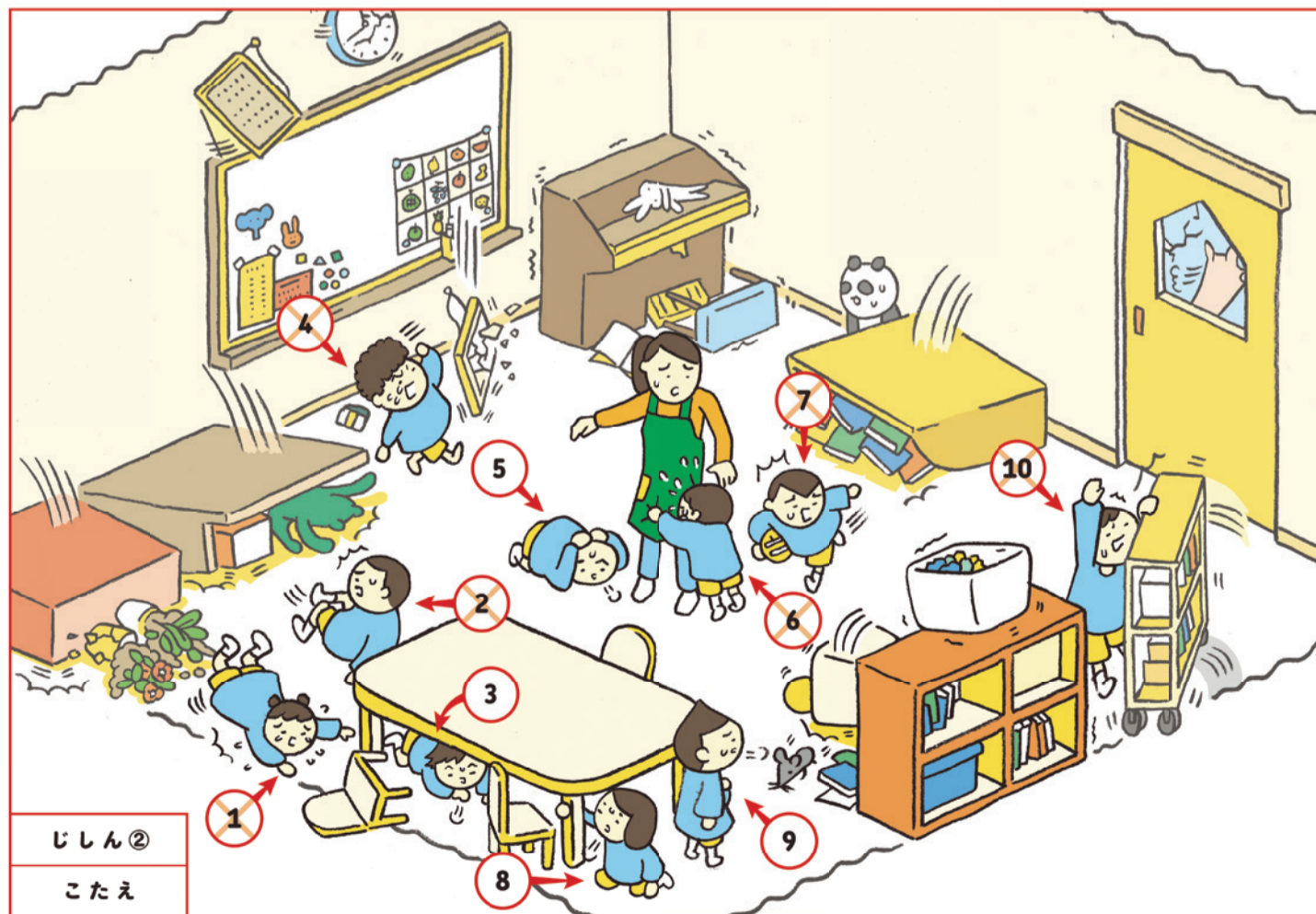
Column

[健康豆知識]
関節リウマチ

WORLD NEWS__8

企業との連携で世界に
支援を届ける

人道支援の現場から(南スーダン)



【こたえ】の例：⑦は頭を守っているけれど、倒れてくる棚の前なので危険。危険なものからは離れること！



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
TEL: 03-3438-1311
一部 20円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。





引き出す！ 子どもの 対応力

4歳から防災意識を。
幼稚園・保育所で防災教育スタート

「もんだい」シートを見て、危ない子、安全な子を考えます。間違い探しをするように夢中で

地震や津波、風水害などが発生したとき、どのように行動して自分を守るか。身の周りの危険を知っておくこと、日頃から考えておくことは、減災の一助。小さな子どもであっても、それに変わりはありません。

自分の命を守るための 防災教育プログラム

いつどこで災害が起こってもおかしくない日本では、たとえ4歳ほどの幼児であっても被害を回避する方法を把握しておくことが大切です。日赤は幼稚園・保育所向け防災教育プログラムを開発し、今年中に青少年赤十字加盟園へ配布する予定です。完成に至るまでには、複数の幼稚園や保育所でトライアルを重ねてきました。

教材は保育士などの意見を参考に、写真や動画ではなく親しみやすいイラスト形式にし、幼稚園や保育所の教室にある物の高さまで忠実に再現。これによって鮮明なイメージを持って考えることができます。

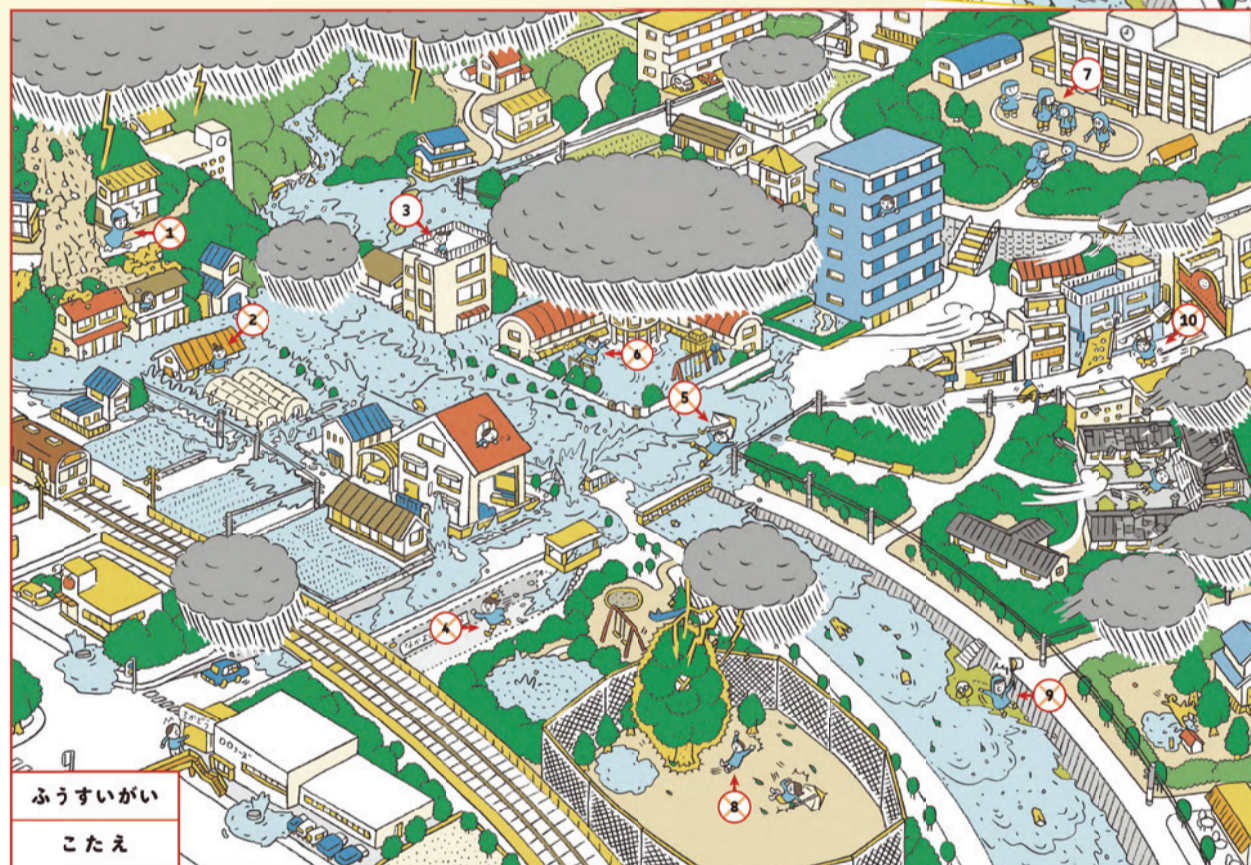
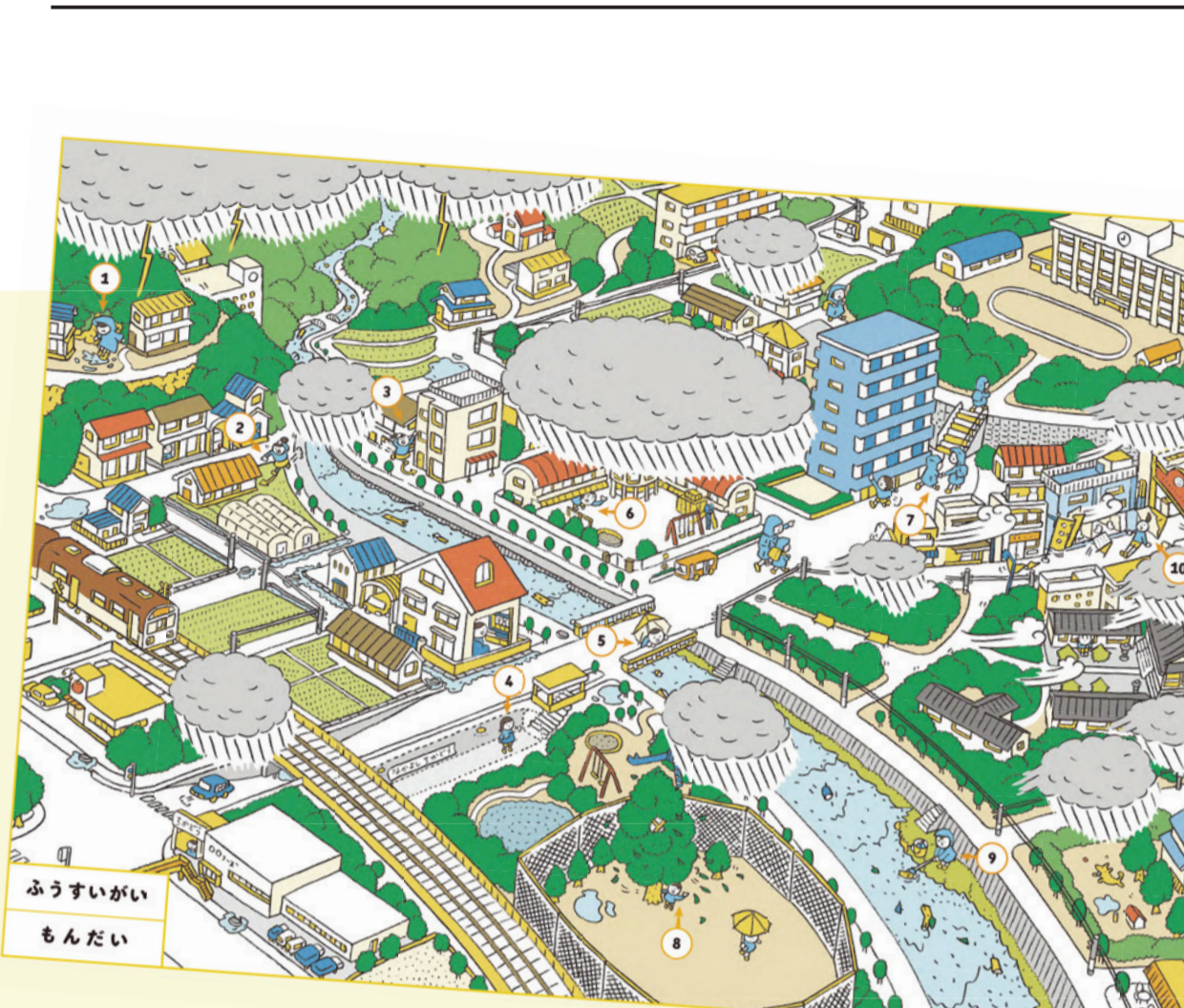
1月にトライアルを行った東京都武蔵野赤十字保育園の子どもたちは、先生の「どこが危ない?」「誰が危ない?」という問い掛けに、「ガラスが割れるから危ない」「棚が倒れてくるかも」と口々に指摘。担当した先生は「いつもは発言しないおとなしい子も積極的に話していた」「私自身も気付かないポイントを指摘してくれた」など、子どもたちに一方的に正解を教えず、自主的な意見が出るこ

や高い集中力で臨む姿に驚いた様子でした。これまでの幼児向けの防災教育では、子どもたちは受動的に守られるだけの存在でした。ところが、子どもたちからは「この子は危ない! 私が助ける」といった共助の反応も。子どもの思考力には驚かされるばかりですが、今後も日赤は「気づき」「考え」「実行する」力を持った子どもたちを育てていきます。

※青少年赤十字加盟園教育方針の一つに青少年赤十字の活動を取り入れている幼稚園や保育所。青少年赤十字は「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」といった3つの実践目標、主体性を育むために「気づき」「考え」「実行する」という態度目標を掲げており、幼稚園、保育所、小・中・高等学校、特別支援学校などの中に組織されている。



4歳児のトライアルの風景。一度に10以上のことを考えるため、子どもたちは集中。「この子の頭に物がぶつかるー!」など、それぞれに気付いたことを発言



地震のほかに津波や風水害など、6種類のテーマを用意。災害時の危険(場所・行動)を知り、自分の身を守るための基礎的な知識や判断力を身に付けることを目指しました。教材は発災前後をイラストで表現した「もんだい」と「こたえ」のシートに分かれており、子どもたちは「もんだい」を見ながら、危ない場所と行動について考えます。災害の際には、周囲全体を見て行動しなければなりません。そのため、1枚のシート内にあえてさまざまな要素を盛り込み、自分の幼稚園や街を俯瞰で見られるようにしました。登場する一人一人に個性がみえるのも特徴です。例えば、上の「もんだい」で⑨の子は河原にいますが、流れてくるものが気になる様子。自分やお友達に置き換えて、よりリアルにイメージしやすいように工夫しました。

大人たちが思う以上に小さい子たちも、災害の知識や適切な行動を吸収する力を持っています。この教材がご家族や地域に防災・減災の輪を広げるきっかけになることを期待しています。



教材監修の 高梨 成子さん
(防災・情報研究所代表)

幼稚園や保育所の先生と子どもたちに一緒に考えてもらえるような教材を目指しました。トライアルで10園以上を訪問しましたが、どの園でも積極的に取り組む子どもたちの姿が印象的でした。



教材開発担当の 藤枝 大輔
(日本赤十字社 青少年赤十字係長)



一人一人が知識と行動力を身に付け、他者への思いやりや優しさ、命の大切さを学ぶ

日本から海外へ 防災の広まり

幼稚園での防災教育に先駆け、日赤はこれまで青少年(小・中・高校生)向けの防災教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」を11万5000部制作し、全国全ての小・中・高等学校3万6022校に無償で提供してきました。

同教材は、小学校低学年用、高学年用、中・高生用の3種類あり、映像などの資料が豊富で、生徒が「気づき」「考え」「実行する」よう工夫されているのが特徴です。自分の命を守る力、学校・地域・家庭へと防災を広める力を育成します。

中・高生用は、英語にも翻訳。日本と同様、地震、津波、台風(サイクロン)や火山噴火などの災害が多いバヌアツからは、英語版を基に、防災教育をしたいという申し出がありました。現在、同国独自の環境や状況に合わせた教材を小学校のカリキュラムに組み込む計画が進んでいます。日本から世界へ、防災意識は広がっています。

同教材の一部はウェブページ(<http://nisseki-jrc-bousai.com>)からの入手も可能です。



バヌアツの学校は災害に対する準備が不十分。日赤のノウハウをバヌアツ赤十字社に継承します

楽しく学ぶ防災グッズ

小学生からお年寄りまで楽しみながら学べる、愛知県支部の「すごろく」や、新潟県支部の「かるた」など、昔ながらの遊びを通して、楽しく防災教育に取り組む工夫を行っています。



愛知県支部
いえまですごろく
(防災ボードゲーム)

コマを進めることで、災害時のシチュエーションを疑似体験。3600円(税別)で販売中。売り上げの一部が日赤に寄付されます

新潟県支部

防災かるた

平成16年新潟県中越地震から10年を機に制作。自然災害から身を守る知識をまとめたかるたです。県内の希望する青少年赤十字加盟校の新入学児童に毎年寄贈



ダニエル・カールさんが寄り添い、見てきた復興の軌跡

思い出したくないけれど、忘れちゃいけない

東日本大震災の発災直後から被災地に入り、ずっとエールを送りながら復興を見つめてきたダニエル・カールさん。7年を迎える今の東北を歩き、災害について、防災について、何を思うのでしょうか。



「奇跡の一本松(岩手県陸前高田市)」を見上げるダニエルさん

東北の底力はすごい！ 地元の踏ん張りが復興を支えてきた

発災直後から、交通の便が悪くて支援の手が届きにくい岩手県山田町を中心にトラックで食料を運びました。うまいものを食べないと元気が出ないと思って。ねぎ1本、卵1個で「ありがとう」っておばあちゃんが涙を流して喜んでくれた。笑顔も見せてくれて、おいしいご飯はこころのケアになるんだと実感しました。

半年たったころには瓦礫も除かれ、仮設のスーパーができて仮設住宅へ引っ越し。すごいスピードでしたよ。地元の若者が町のために一番がんばってた。復興の遅れが指摘されますが、最初から見てきた者からするとすごい変化ですよ。どれだけ地元の皆さんが踏ん張ったか。トラックで運ぶ物資も、仕事や自活を応援する物に変わりました。

私の活動はたくさんの人との出会いに支えられ、続けられました。一人一人のことが忘れられ



本吉病院で川島医師と。同院の設備や医療機器は赤十字を通して世界中の皆さんから贈られた救援金で支援され、再建された

ません。(院長不在により地域唯一の医療機関としての存続が危ぶまれた)気仙沼市立本吉病院に、山形からボランティアとして駆け付けて、院長になった川島実医師も印象的でした。震災がターニングポイントになった方は本当にたくさんいる。

子どもたちの笑顔、学生たちの夢それが町を明るくする

震災を経験して医学を目指す若者も多い。東北の医療に貢献するため、音大を卒業した後に、東北医科大学に入学した学生さんとも話を



クウェート国友好医学生修学基金で医者を目指す東北医科大学の学生と。同基金は、クウェートから寄贈された原油をもとに宮城県が運用。県が指定する医療機関に10年以上貢献することを条件として修学資金の返済が免除される

しましたよ。頼もしい限りだ。

津波の被害に遭って、高台に再建された陸前高田市の広田保育園にも行きました。今の園児は震災を知らない。くっつくなく明るく育っています。そんな子どもたちを見て「被災された親御



マレーシアからの海外救援金で再建された広田保育園で

さんたち、本当によくがんばった」と思ったら涙が止まりませんでしたよ。

心の復興は、まだまだこれから… 遠慮はいらん。遊びに来て！

一方で、まだ未来が見えない現状もある。例えば原発事故。故郷に帰れない人たちの真の復興はいつになるのか…。何が正しいのか、私も勉強しながら探っています。

心の復興はまだまだ。私にできるのは一人一人の話を聞くこと。これから何百回でも通います。皆さんも「東北に行く」と迷惑？ だなんて遠慮はいらん。どんどん遊びに行ってください。それが一番の貢献です。

翻訳家・タレント ダニエル・カールさん

日本生活は30年以上。山形観光大使を務めるなど東北に縁があり、復興支援に奔走してきた。今も月2回は東北を訪れる



世界100の国と地域から寄せられた海外救援金約1002億円で日赤が実施した復興支援

<p>生活再建支援</p> <p>日常生活を取り戻すための一歩として、仮設住宅等入居者約13万世帯に家電6点セットを寄贈。仮設住宅に訪問し健康づくりの支援も</p>	<p>福祉サービス支援</p> <p>高齢者の孤立・孤独化を防ぎ、地域コミュニティを再構築できるように、被災高齢者共同住宅約800戸の建築を支援</p>	<p>教育支援</p> <p>被災した幼稚園や保育園の再建、体育館の備品整備のほか、被災地で生活する児童・生徒をサマーカーンに招待</p>	<p>医療支援</p> <p>地域の医療機関の復旧・再建を進め、石巻・気仙沼医療圏における医療連携体制を回復。高齢者への予防接種なども行った</p>	<p>災害対応能力強化</p> <p>いざという時に必要なものを備えた防災倉庫を約400カ所に寄贈。防災・減災教育の普及とともに、全国の自治体と災害対応能力の強化に貢献</p>	<p>原子力災害対応</p> <p>原子力災害対応ガイドラインを策定したほか、被災状況を把握するための機器を整備。健康不安に寄り添う活動も実施した</p>
---	---	--	---	---	--

忘れないプロジェクトとは？



私たちは、忘れない。

「3.11を考える」から「365日考える」へ

これまでの災害は皆さんの心に今、どのように残っていますか。災害の経験や教訓を未来へつなげるため、今年も日赤は「忘れないプロジェクト」に取り組みます。3月1日～31日の期間中、プロジェクトバッジの着用やポスター、パネルで活動をアピール。一人一人の意識が社会全体を変えていきます。共に災害に対応する力を育みましょう。



あなたは“その時”、どのように自らの命を守りますか？ 周りの命をどうやって助けますか？ 「忘れないプロジェクト」は、災害で得た教訓をこれからの防災・減災へつなげる取り組みです。一人一人が具体的なイメージを持てるよう、最大限の準備をしておくことの大切さを訴えます。今年は新たに防災・減災を啓発するショートムービーも制作しました。出演したのは20代から50代の

一般人男女約10人。災害時や避難所での厳しい現実を前にしたとき、自身が想像していた「被災すること」とのギャップに、カメラの前で愕然とするばかり…。「楽観的過ぎた自分が恐ろしい」「すぐに備えないと、とんでもないことになる」など驚きの言葉が聞かれました。自分(自助)と周り(共助)を守るために、「3.11を考える」から「365日考える」へ。あなたもリアルな“その時”を感じてください。



私たちは、忘れない。 検索 <http://jrc-tsudukeru.jp>

大切な人を守るための気付きがここに。「忘れないプロジェクト」ムービーはこちら。



想像と現実のギャップ… 出演者が感じた被災の真実



片平祐子さん (40代) ニュースは見てたはずなのに、知らない情報ばかり…。私の意識は防災用品を買う、というところで止まっていた。お風呂に1週間入れないとか、想像が及ばなかった。意識が変わりました。知るところから始めたい。

被災地の現実から、たくさんの気付きがあったようです。あなたの考える防災・減災は何ですか。



今井翔太さん (20代) 認識が甘過ぎたと痛感。被災後2、3時間で助けは来るだろうって思っていました。物資も自分たちで管理しないといけないんですね。実際に被災したらリーダーシップをとる勇気が出るか…。でも、孤立する人がないように支え合いたい。

*今月号をもって「とっさのとき、どうする？」は終了します。新コーナーをお楽しみに！

file.9 とっさのとき、どうする？

急性アルコール中毒

春は歓送迎会シーズン、お花見もあります。日本人のお酒の消費量は年々減っているものの、急性アルコール中毒で搬送される人の数は、過去5年間でむしろ増加しています。急性アルコール中毒は命を落とすこともあり、大変危険です。

予防には、本人が適量を知るのが一番ですが、飲酒時には「本人に酔った自覚がない」「体調によって酔い方が異なることも多く、周囲の人による観察が欠かせません。次にご紹介する「②酩酊」以降は全て、急性アルコール中毒のリスクを伴います。

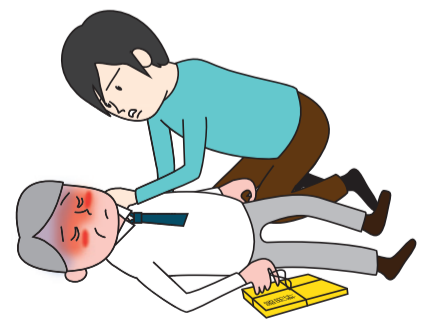
急性アルコール中毒への経過

- ① ほろ酔い…陽気にはしゃぐ
- ② 酩酊…足がふらつく・吐き気・記憶が途切れる
- ③ 泥酔…意識がもうろうとする・激しく嘔吐する
- ④ 昏睡…呼び掛けても反応がない

特に「③泥酔」は、酔って眠っているのか、泥酔して意識がもうろうとしているのかの区別がつきにくく、「呼び掛け」によって判断する必要があります。周囲の人はその反応次第で右図を実践してください。

※詳細は赤十字救急法講習を受講ください。受講のお問い合わせは、日赤の各都道府県支部へ

お酒を飲み過ぎて意識がもうろう… 呼び掛けても反応しないときは!?



呼び掛けに反応する場合
顔色・呼吸・脈に異常がなければ休ませ、水を飲ませるなどして観察を続ける

呼び掛けに反応しない場合
皮膚が冷たくしっとり汗ばんでいるのは、低体温の症状。呼吸が非常にゆっくり、または浅い場合は、すぐに医療機関で受診を

AREA NEWS

全国各地、あなたの生活のすぐそばで、日本赤十字社の活動は行われています。

- 日本赤十字社支部(各都道府県) … 47支部
 - 病院など医療事業施設 … 103カ所
 - 血液センターなど血液事業施設 … 232カ所
 - 社会福祉施設 … 28カ所
 - 看護師など養成施設 … 25カ所
- (平成29年4月1日現在)

北海道

氷点下10度の避難所宿泊訓練！最悪の状況下でいかに助け合うか

1月13日・14日、日赤北海道看護大学で行われた厳冬の避難所宿泊演習に約160人が参加。外気温が氷点下10度を下回る中、暖房を切った体育館で一夜を過ごしました。今回は昨年までの電気・ガスの停止に加え、下水道も止まった過酷な状況を想定。仮設トイレをワンボックス車内に設置したり、段ボールベッドを改良するなど新たな試みを行い、課題を確認しました。



「高齢者のためには、さらに改善が必要だ」などの議論が行われた

東京都

親子一緒にステップアップ 子ども向け防災プログラムを開催

「そなエリア東京(東京臨海広域防災公園)」で2月2日・3日に、体験型防災イベント“大地震へのソナエ”が開催されました。日赤は、親子で参加できる防災プログラムを実施。“そのときどうする？”と題したワークショップでは、被災した自分をイメージした子どもたちから多数の意見が出るなど、親子で一緒に防災について考える絶好の機会となりました。



共催のマスコットキャラたちと触れ合い、子どもたちも笑顔に

福井県

大規模な雪害が発生、救護班出動 ドライバーの診療と健康相談を実施

2月上旬、37年ぶりの豪雪により、95*人の重軽傷者に加え、9*人の尊い命が失われた福井県。福井県支部は医師・看護師の救護班を派遣し、救護所を設置して、雪の中で立ち往生してしまったドライバーなどの巡回診療・健康相談を行いました。ドライバーの中には、1メートルを超える積雪の中、3日間の間立ち往生を余儀なくされた方もいらっしゃいました。このたび被災された皆様へ心からお見舞い申し上げます。



声掛けに笑顔で「大丈夫」と答えるドライバーも ※消防庁発表:平成30年2月16日現在

三重県

クッキーに込めた感謝の気持ち 記念品製作の高校生を表彰

三重県赤十字血液センターは2月5日、献血に協力した方への記念品として、クッキーを製作した県立久居農林高校食品コースの生徒へ感謝状を贈りました。昨年度の県内10代の献血率は全国最下位。同センターでは、若者に献血の必要性や重要性を知ってもらおうと、昨年から高校生へ記念品の製作を依頼。この活動から、若者へ献血が普及することを期待しています。



「記念品を作ることで献血への理解を深めてほしい」と意義を語る

岡山県

防災意識を高める「街歩き」！ ボランティアが住民の声を聞き取り

1月13日、「OKAYAMA災害・防災ボランティア交流会」を開催しました。これは、日赤岡山県支部、岡山県社会福祉協議会、岡山県の三者で企画したもので、各団体に登録されているボランティアが参加。市街地の危険箇所を調べたり、住民へのインタビューで防災意識の調査を行いました。今後も年に一度のペースで開催し、ボランティアの連携も強化する方針です。



「市民の防災意識の低さを再認識。今後も頑張りたい」と参加者

大分県

年の初めにつながる絆 佐賀の中学生から被災地へ年賀状

熊本・大分地震にて被災された方への年賀状が、日赤大分県支部に寄せられました。送り主は佐賀県青少年赤十字加盟校である、唐津市立浜玉中学校の生徒たち。年賀状には、励ましや復興の祈りが込められた温かい言葉、色鮮やかなイラストが添えられています。大分県支部では特に被害の大きかった由布市に贈呈。庁舎内で市民へ向け、紹介されています。



年賀状は、由布市役所福祉課(新館1階)で見ることができます

佐賀県

佐賀市教育委員会の申し出を受け 市内の小・中学校に「この1年」配布

赤十字の昨年度の活動をまとめた映像「赤十字この1年」が佐賀常民記念館で上映されました。映像を見た佐賀市教育委員会から「郷土の歴史や防災に関する教材として、この映像を市内の全小・中学校(53校)に配付したい」との申し出が。1月18日、佐賀市役所において市内全小・中学校に対し「佐賀常民伝」「赤十字この1年(DVD)」の贈呈式が執り行われました。



2016年度「赤十字この1年」はこちらで→



熊本県

下水道・電源・くみ取りも不要!? 災害対策を兼ねた革新的トイレ、誕生

熊本赤十字病院は①避難所となる公共施設などに災害時に役立つ機能を普及させる、②それらを普段使いする、という構想を立て、太陽光蓄電システムを備えた「完全自己処理型水洗トイレ」をニム電子工業と共に開発。微生物で汚物を分解する「バイオトイレ」の一種で、匂いがなく、汚泥が少なく、下水道や電源設備も不要という革新的トイレに期待が集まっています。



維持費がほとんどかからないため、長期的なコストカットも望める

全国

木の折り紙!?「折り樹」をプレゼント！ 献血でできる被災地支援

2月9日に「献血で熊本支援を！」と題して、全国の献血会場で、木製の折り紙「折り樹」を配布しました。この「折り樹」は、日清医療食品株式会社からの寄贈によるもので、献血した方へ1枚配布されるごとに、同社から日赤に対する活動資金として、25円が寄付される仕組みとなっています。また、熊本県小国町産の間伐材であるスギが使用されており、熊本県内の環境保全にも役立っています。



ほのかな香りを放つ「折り樹」

常任理事会開催報告

平成30年2月16日、本社において平成29年度第10回の常任理事会が開催されました。

- 1 予算の補正について (熊本県支部の他会計操出にかかる一般会計歳入歳出予算の補正)
- 2 資金の借入について (伊勢赤十字病院の電子カルテシステムの更新にかかる資金の借入)
- 3 理事会に付議する事項について (武蔵野赤十字病院の施設整備にかかる資金の借入)
- 4 理事会および第91回代議員会に付議する事項について (役員を選出、平成30年度事業計画および平成30年度収支予算)

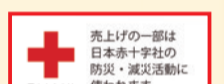
審議の結果、予算の補正および資金の借入については原案のとおり議決され、理事会および第91回代議員会に付議する事項については、原案のとおり、平成30年3月23日開催の理事会および第91回代議員会に付議することになりました。また、北海道立北見病院の指定管理の受託および予算の補正にかかる1月分の社長専決事項について、それぞれ報告しました。

present プレゼント

支援マーク付き 伊藤園のお茶

(お1人1種類・1ケース/280ml×24本入)を

30名さまにプレゼント!



※上の画は日本赤十字社の防災・減災活動に使われます。



「はと麦茶」「そば茶」「黒豆茶」3種類の中からお選びください

2月26日、(株)伊藤園から新発売の「伝承の健康茶」シリーズ。どれも国産素材を使用し、体にやさしい「カフェインゼロ」のお茶です。この売り上げの一部が日本赤十字社の防災・減災活動に寄付されることになりました。この商品は全国で販売されます。

希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS 3月号を手にされた場所(例/献血ルーム)
- ⑥3月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？(いくつでも)

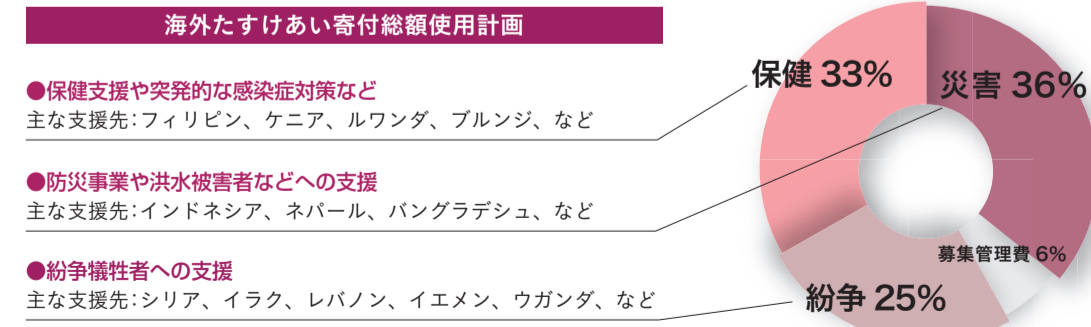
- A. 表紙
 - B. 引き出す！子どもの対応力
 - C. ダニエル・カールさんが寄り添い、見てきた復興の奇跡
 - D. 忘れないプロジェクトとは？
 - E. とっさのとき、どうする？
 - F. エリアニュース
 - G. 健康豆知識
 - H. 全国から7億円～(海外たすけあい) 1. プレゼント
 - J. ワールドニュース(グリーン・キャンペーン)
 - K. 人道支援の現場から
- ⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice(読者の声)への投稿もお待ちしております。

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 3月号プレゼント係 FAX / 03-6679-0785 メール / koho@jrc.or.jp (件名「赤十字NEWS 3月号プレゼント係」) 3月26日(月)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます ※個人情報(は賞品の発送のみに使用いたします)

NHK 海外たすけあい

全国から7億447万6254円！ 「海外たすけあい」に寄せられた想い

昨年12月1日から25日まで行われた「海外たすけあい」募金キャンペーンには、全国から7億447万6254円(8万1331件)の寄付が寄せられました。同キャンペーンは、紛争や災害などに苦しむ世界の人々を支援するため、日本赤十字社とNHKが毎年共催しているもので、今回が35回目。皆さまの支援に深く感謝申し上げます。



ニュースで報道され、支援が集まりやすい場所だけでなく 支援の届きにくい国や地域にも救いの手を差し伸べます

日赤のドクター&ナースが教える 知って良かった！

健康豆知識



「関節リウマチ」は30代から要注意!

岡山赤十字病院 第一整形外科部長・リウマチ科部長 小西池 泰三 (こにしけたいぞう)

関節リウマチとは、免疫異常によって、手や足の関節の骨が破壊される病気です。強い痛みや腫れを伴い、悪化すると関節が変形して正常に動かすことが困難になります。関節以外にも、貧血・微熱・倦怠感などの全身症状が現れることがあります。

国内の慢性関節リウマチの患者は70~80万人、そのうちの6割が30~50代の女性です。効果的な治療法が長い間ありませんでしたが、現在は、リウマチを引き起こす炎症性サイトカインという物質をブロックする新薬が登場し、約8割の人が症状を抑えられています。

*左右対称ではなく、右膝だけ・左手指だけ、など片方に症状の出る「単関節型」リウマチもあります。

抑制率を高めるには、早期発見・早期治療が重要です。「手指の第二関節や指のつけ根が左右対称にこわばる*」「朝起きて30分~1時間こわばりが改善する」といった症状が見られたら、すぐに医療機関を受診してください。

関節リウマチには似通った病気も多く、診断は簡単ではありません。最初の検査では異常がなかったのに、2回目以降に「関節リウマチ」と診断されることもレアケースではないのです。症状が続く場合には、定期的に検査を受けるようにしてください。



意外にも、30代の女性もリウマチにかかるリスクあり。妊娠中は約半数の人の症状が一時的に緩和します。不安な症状は、かかりつけの医師に相談してください。

file. 43

*知って良かった!健康豆知識は切り取って保存していただけます

WORLD NEWS

企業との連携で世界に支援を届ける
(インドネシア)



満面の笑みで毛布に駆け寄る子どもたち

「本物の毛布で眠るのは初めて！」 児童施設に“リサイクル毛布”を贈呈

今年10年目を迎える「オンワード・グリーン・キャンペーン」。協力企業との連携により、日本赤十字社はインドネシアの孤児院や寄宿学校、介護施設などに“リサイクル毛布”4000枚を寄贈しました。

2017年に生まれた“リサイクル毛布”は スマトラ島沖地震の被災地域へ

日本赤十字社は株式会社オンワードホールディングスとともに国内外の被災地や途上国に毛布を贈っています。これはリサイクルやリユースを通じて衣類循環システムの構築を目指す「オンワード・グリーン・キャンペーン」との共同事業で、顧客から引き取った同社製衣料品の一部を毛布や軍手などにリサイクルし、日赤を通じて支援を必要とする地域へ届けるものです。

キャンペーンが始まったのは2009年。今年で10年目を迎えます。日赤は2010年から共に活動をスタート。衣服提供者は2万5608人だった初年度から毎年増え続け、2017年度は



寄宿学校での贈呈式。「毛布の上からは蚊に刺されない。これからは安心して眠れます。」など喜びの声も

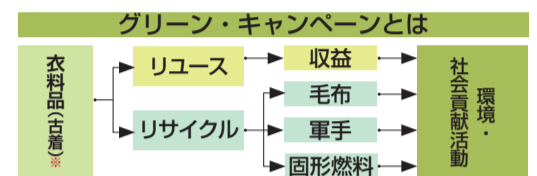
12万1134人にのびりました。引き取った衣類は合計で約307万点におよびます。これら衣類は加工され、毛布や軍手に生まれ変わります。

毛布はこれまで東日本大震災の被災地をはじめ、中国、モンゴル、ミャンマー、ネパール、ベトナムに2万3200枚が届けられました。昨年10月にはインドネシアのベンクル州へ4000枚を寄贈。同州は2004年にスマトラ島沖地震が発生した災害多発地域です。そこで毛布1000枚は、災害時に活用すべくインドネシア赤十字社ベンクル州支部に備蓄されることになりました。

人々の思いを“支援”に変えて 助けを必要とする地域に届ける使命

その他の毛布3000枚は、生活困窮者支援として孤児院や寄宿学校、公的介護施設などに寄贈。セルマ県にあるミフタフル・ヒダヤ寄宿学校では副校長から「子どもたちは、今までサロンという服を毛布の代わりにしていました。これからは本物の毛布で眠ることができます」と感謝の言葉が伝えられました。子どもたちは「ありがとうございます」と目を輝かせ、手を額に近づけたり胸に当てたり、インドネシア流のジェスチャーで感謝を表してくれました。

キャンペーンを通じて回収した衣料品を、



※グリーン・キャンペーン実施期間中にオンワードの衣料品を引き取り

チャリティー価格で提供し、収益を毛布の生産などに活用する店舗もあります。この活動に賛同した約54万人の思いが詰まっている毛布。10年目となる今年はインドへ寄贈されます。

このように自社の商品を社会貢献につなげる企業が増えています。日赤では、世界191社におよぶネットワークを生かし、人々の思いを支援という形にして、助けを必要とする地域に届けます。今後もその使命が希望へつながると信じ、活動に励んでいきます。

赤十字NEWSが入館証の
代わりになります！

オンワード榎山ファミリーセール セールでお買い物=支援に参加！

売上げの一部が日赤に寄付されます。

日時: 2018年 3/31(土)、4/1(日)、4/7(土)、4/8(日)
4/21(土)、4/22(日)、4/28(土)、4/29(日)

場所: オンワード榎山 芝浦第3ビル
(東京都港区海岸 3-14-11)

入館証引換所※で赤十字NEWS 3月号の提示が必要です。
※引換所: 芝浦第3ビル裏グリーン・キャンペーンカウンター

引換所の地図や詳細はこちら▶

(簡単なアンケートにお答えください)

【お問い合わせ】

03-5476-5505

(株式会社オンワード榎山 環境経営課)

詳細 URL : <https://questant.jp/q/CYRFOOK7>



VOL.17 人道支援の現場から

顔に銃弾を受けた子どもの歌 ～戦闘地区で感じた生きる喜び～

南スーダンでは日常的に戦闘が行われている地域です。首都ジュバにある国際空港に降り立った時、私は「ここでやっていけるのかな」と不安な気持ちになりました。その空港は“建物”ですらなく、ボロボロのテントでできていて、とても国際空港とは思えなかったのです。

私は主に、戦闘などでケガをした患者さんの手当てやスタッフのマネジメントを行っています。さまざまな部族があり、言葉や生活習慣、考え方が異なりますが、常に患者さんと対話し、最善の治療が行えるよう努めています。

ある日、顔に銃弾を受け、元の顔が分からなくなるほどの損傷を負った男の子が搬送されてきました。顎や口の骨が折れ、声を出すこともできず、食事はすべてチューブから。生き残れるかも心配されました。それでも治療を続け、ようやく喉のチューブを抜くことができたとき、その子は一日中歌っていました。よほどうれしかったんですね。私も安堵で目が潤みました。

日本にいると想像しづらくもかもしれませんが、私が話した兵士も一般の人もみんな平和を望んでいるのです。彼らの希望がかなう日が来ることを私も願っています。



池田 載子さん

Noriko Ikeda

南スーダン紛争犠牲者救援事業
大阪赤十字病院 看護師